

胎児期・幼年期
(0～5歳)

少年期
(6～18歳)

青壮年期
(19～44歳)

中年期
(45～64歳)

高年期
(65歳～)

＼ 政策 ＼

4

いくつになっても自分の 楽しみが見つかるまちになる



人生100年時代において、中年期はまだ人生の折り返し地点を過ぎたあたりです。今のキャリアを成熟させるとともに、現段階からセカンドキャリア*を見据えた学びや活動を始めることで、より充実した人生設計が可能となります。いくつになっても、打ち込めるものが見つかるよう、生涯学習の支援や、スポーツ環境の充実などを図っていきます。



POLICY

政策実現によってなりたい姿

仕事や家庭からはなれても、地域で学習やスポーツに触れる機会があり、暮らしを豊かにできる居場所があります。

政策実現にあたって意識する指標

市内で学習やスポーツに
触れる機会があった
市民の割合



現状と課題

高齢者の担う社会的な役割が多様化している中、セカンドキャリアを見据え、いつでもどこでも学びやすい環境づくりや、元気な体を維持していくことなどが求められています。

政策に紐づく施策

施策4-1

生涯にわたる学習の
「しやすい」を支援する

施策4-2

スポーツへの参加機会を
充実させる

生涯にわたる学習の「しやすい」を支援する

施策実現によってなりたい姿

- いつでもどこでも学習しやすい環境が整い、学びの機会を逃さないようになっています。
- 学びの成果を発信しやすく、受信しやすいようになっています。
- 学習資源のデジタル化が進むことにより、学びにアクセスしやすい環境になっています。

なりたい姿の実現度を測る指標

生涯学習活動を行う機会を持つことができた市民の割合

現状値

30.8%
(2021年度)

目標値

50.0%
(2031年度)

現状と課題

【国や東京都の現状・課題】

- 国は、多様な学習機会の提供、学習した成果が適切に評価され、それをいかして様々な分野で活動できるようにするための仕組みづくりに取り組んでいます。
- 国は、超高齢社会への対応として、職業に必要な知識やスキルを生涯通じて身に付けるための社会人の学び直しを推進しています。

【町田市の現状・課題】

- 生涯学習に関する意識調査によると、学びの機会やきっかけを失っている現状がある一方で、習得した

知識や技能を他者のためにいかすことに対するニーズがあります。そのため、多様な学びの機会や場所の創出、学習成果をいかす機会の充実が課題です。

- 必要とする知識や技能を身につける上での情報の入手先はインターネットが多く、それを活用した、学びの提供も課題です。

【今後予想される課題】

- コロナ禍を契機に新たな生活様式が求められることに伴い、ICTを活用するなどして、新しい学びの環境を整えていくことが必要です。



なりたい姿の実現に向けた施策推進の方向

1 学びに出会う機会の充実

市民が身近な場所で学習に触れる機会として、地域の公共施設などで、関係機関と連携したイベントや講座を行います。

また、様々なライフスタイルの市民が学べるよう、電子書籍サービス、歴史・文化資源などのデジタル化を行い、いつでもどこでも学ぶことができる環境づくりを推進します。

2 学習成果をいかす機会の充実

市民が学んだ成果をいかして地域の中で活動できるよう、必要な知識や技能を習得できる機会を提供します。また、市民同士の学び合いの輪を広げるため、学びを深めた人たちが地域で活動することを支援します。

関係する町田市の計画

- 町田市教育プラン2019-2023
- 町田市生涯学習推進計画2019-2023

みんなの想い



同じ趣味の仲間とつながれる
イベントや機会が身近な場所で
開かれているといいなあ。